

平成 24 年度

施 政 方 針

(要約)

3 月の町議会定例会で行われた、住永町長による施政方針を報告します。

地域福祉の推進

超高齢社会を迎え、社会福祉協議会などの関係機関や地域住民と一体となって、各種施策の推進にさらに努めていきます。「災害時要援護者支援システム」による支援体制、「認知症施策総合推進事業」をさらに進める一方、誰もが自立し、障がいのある人もない人も安心して暮らせる「共に生きるまちづくり」を推進します。

健康づくりについては、各種健診の受診率の向上を目指し、妊婦から高齢者まで、住み慣れた場所です心安心して暮らせるよう地域福祉の推進を図ります。

子育て支援については、中学3年までの子ども医療費助成や、子育て支援事業の充実を図る一方、社会問題となっている児童虐待については、迅速な対応と防止に努め、子どもの病気により、保護者が就労などで看護ができない状況に対応するため、一時的に保育する病児・病後児保育室の開設に向け取り組んでいきます。保育所の待機児童対策については、認可保育所の新設と、入所定員の弾力的な運用を図り、保育を希望する保護者が安心して働ける環境づくりを進めていきます。

保健・福祉の拠点となる「益城町保健・福祉センター」の建設については、本年度に工事着手の予定です。施設を有効に活用していただくことで、健康管理・保持に寄与できるものと思っています。児童館や公民館広安分館機能を併せ持つ施設として、町内外に誇れる施設を目指します。

住民の健康・福祉増進

国民健康保険事業については、住民の健康・福祉増進を図るため、生活習慣病予防対策事業や医療費適正化事業などを実

施します。

国保年金係と健康増進係を統合し、「健康づくり推進課」として再編し、健康づくり事業の実施や各種健診の充実を図り、医療費の抑制に取り組む体制を作り、財政の健全化に努めます。

後期高齢者医療については、人間ドックをはじめ、高齢者が安心して医療を受けられるよう取り組みます。

国民年金事務事業については、関心が薄れている若年者などに対して、制度に対する正しい理解を深めるための啓発活動を推進します。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、介護、介護予防、医療、住まい、生活支援を切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の構築に取り組みます。

生活環境の改善に向けて

道路事業の主なものとして、地域再生道路グランメッセ木山線および農免道線の熊本空港南側への接続など引き続き整備し、県有工業団地「くまもと臨空テクノパーク」へのアクセス道路として、町道テクノ工業団地線を平成25年度完成を目指し整備を進めます。

都市計画においては、「都市計画マスタープラン」に沿った計画的に実施し、特に市街地調整区域の活性化に向けた集落内開発制度を活用し、定住促進および既存集落のさらなる活性化対策として、補助金制度を引き続き実施します。

益城台地土地地区画整理事業は、西地区と中地区は、保留地処分計画の協議を整え事業実施段階へと進め、東地区は、準備委員会が現在協議している企業と共同で確実な事業計画を策定していただき、都

市計画手続きについて関係機関との協議を進めます。

公園整備は、昨年度から飯田山・潮井公園の事業化に着手しています。飯田山自然公園は、基本設計を策定し平成25年度にかけて、山頂広場、展望所、駐車場、散策道整備を進めています。潮井公園整備は、公園予定地約4分の1の用地取得をほぼ完了し、基本設計を策定しましたので、計画的に進めていきます。



山頂が公園化される飯田山

公共下水道事業については、テクノ工業団地線の管渠敷設工事、飯野地区の下水道整備を引き続き進めていきます。津森地区については、汚水幹線の工事を進め、集落内の下水道整備については、下寺中灰塚地区の工事を予定しており、平成25年度の一部供用開始を目指しています。建設コストと維持管理コストの節減を図り、生活環境の改善と公共用水域の水質保全に向け着実に事業を推進します。

災害から住民を守ります

地域防災の要となる町消防団員の確保と同時に、機械器具の装備充実を図るため、消防積載車4台と小型動力ポンプ2